

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

2025



「花の彩」 〈撮影：4期生 西家 孝〉

年頭のご挨拶

歯学部長 宇田川 信之

あけましておめでとうございます。
います。

松本歯科大学創立53年目の
Campus Today 新年号です。
創立者 故矢ヶ崎 康博士の作
詞による校歌「あ、渺々の蒼
穹に」は「建学の理念」が具
体的に謳われています。この
校歌は、「理性の不滅のタイ
マツを灯しつつ、世界観の確
立と社会の無限の法則性を追
求」する使命を我々に強く銘
肝させています。

歯科医師減少時代の到来

厚生労働省の「医師・歯科
医師・薬剤師統計」による
と、2022年、日本の歯科
医師数が初めて減少しまし
た。全国の歯科診療所数は、
2016年をピークに減少の
一途です。2021年のデー
タによると、東京都・千葉
県・神奈川県・福岡県にお
いては、歯科診療所の開設数は
廃止数を大きく上回っていま
すが、長野県をはじめとする
地方はマイナスです。長野県
における歯科医師の平均年齢
は60歳を超え、全国平均と比
較して超高齢化しています。
長野県の無歯科医地区は増え
ており、その人口は1万人以
上と深刻化しています。つま
り、歯科医師の減少は、地方
における歯科医療に今後大き
な打撃を与えるのです。

本邦における2040年
問題とは、経済停滞の中で、
2025年から2040年と

いう僅か15年間に於いて、現
役人口（20歳～64歳）が約
1000万人も減少するとい
う大問題です。このような状
況で、1974年頃から現在
に至るまで50年間、国民医療
費は増加の一途ですが、全医
療費に占める歯科医療費の割
合は減少の一途であるという
現実があります。しかしなが
ら、1996年から15年間に
わたり横ばい状態であった歯
科診療医療費は2011年か
ら年々増加しています。今後
は「歯周病の予防・治療が全
身疾患を予防し、医療費の抑
制に直結する」というエビデ
ンスを基盤として、「健康寿
命の増進・医療費抑制に寄与
する領域」として歯科医療費
の増大が可能となります。歯
科界が一団となり更なる理論
武装による活動が期待されま
す。

歯科医療の 明るい未来を目指して

メタボリックシンドローム
を惹起する各種の生活習慣病
が問題となっています。生活
習慣の乱れがドミノ倒しのよ
うに次々とさまざまな疾患
（糖尿病・心臓血管疾患・慢
性腎臓病・アルツハイマー病
など）を発症させ、最後は誤
嚥性肺炎を惹起し生命を奪う
状態をメタボリックドミノと
提唱されています。骨粗鬆症
や歯周病の予防・治療は、こ
れらのメタボリックドミノを
上流で食い止めることができ

る唯一のポイントであることが
証明されています。本学におけ
る研究結果によると、定期的な
口腔衛生管理の下で骨粗鬆症治
療薬（ビスホスホネート）を使
用した場合、歯周病発生率のリ
スクが大幅に低下することが示
されています。

内閣府による「経済財政運営
と改革の基本方針2024」（骨
太方針2024）では、「医科
歯科連携・多職種連携」に取り
組む政府の指針がさらにいっ
そう強く表明されました。すなわ
ち、「全身の健康と口腔の健康
に関する科学的根拠の活用」国
民皆歯科健診の具体的な取組推
進「オーラルフレイル対策」歯
科衛生士・歯科技工士等の人材
確保「歯科領域におけるICT
の活用の推進」「有効性・安
全性が認められた新技術・新材
料の保険導入」などです。従来
の歯科医療から「口腔機能管理
型歯科医院」へのシフトが必須
であり、歯科界の大きな発展の
ターニングポイントでしょう。

今こそ、歯科医師を志望する優
秀な若者を増やすことが急務で
す。今後、要介護高齢者への訪
問診療体制の強化、市役所・保
健所や総合病院への歯科医師お
よび歯科衛生士の配置は喫緊の
最重要課題です。

日本の未来を左右する歯科医
師・歯科衛生士という尊い職を
目指す若者を育てるため大学な
どの教育に従事しているわれわ
れの任務は重要です。誇りを持
って歯学部での教育・研究・診療
活動に精進してまいります。

本年も皆様のご多幸と松本歯
科大学のますますの発展を心か
らお祈り申し上げます。
2025年が幸ある年となり
ますように。

私だけが知る真実。石破茂という男は「普通の人」だ

内閣官房参与 松本歯科大学常務理事 飯島勲 特命教授

今月号は「プレジデント」1月3日号「リーダーの掟 飯島勲」より、内閣官房参与特命担当として、石破首相の新しい一面に触れる事ができた。ペルー訪問についての記事を要約して紹介します。

私は石破茂首相の人柄に惚れてしまった。11月のアジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議（ペルー）、G20リオデジャネイロ・サミット（ブラジル）の会議に同行した際に、喫煙所で石破首相に遭遇した。2人で並んでタバコを吸う機会に恵まれたのである。私が一人で喫煙所に向かうと、石破首相が中から「飯島

さん、こちらです」と私に手招きしていた。私が驚いて硬直すると、石破首相が「どうぞ、どうぞ」と、自分の隣のイスを勧めてくれた。恐れ多いと思ったが、断るのも失礼だし、タバコも吸いたかったので、一緒に吸うことになった。喫煙所で世間話を交わしながら一緒にタバコを吸ってみると、石破首相は驚くほど「普通

の人」だった。どうして普通の喫煙所を使うのかと聞いてみると、「部屋のクリーニンング代が30万円もかかるんですよ。国民の皆さんの税金で、タバコのクリーニンング代にそんなに払えませんが、飯島さん」という。その言葉で、私は「この人は、国民と同じ感覚を持っている」と親しみを感じた。

私にとっては、石破首相の新しい一面に触れることができた。ペルー訪問だったが、APECでの行動が「外交マナーに問題がある」と批判された。各国の首脳と座ったまま握手」「集合写真の撮影に間に合わずに欠席」といった内容だが、現地で見えていた私にいわせれば、どちらも防ぎようがなかったように、マナー違反といわれるほどでもない。「座ったまま握手」

というのは、多くの首脳が集まる会議では、相手が急いで立ち上がる間もないということがあるのだ。他の国際舞台、首脳でもよくあるのに、なぜか石破首相ばかりが批判されるのは本当に気の毒である。また、集合写真に間に合わなかったのも、今年9月に亡くなったアルベルト・フジモリ・ペルー元大統領の墓参りから会場に向かう途中に事故渋滞に巻き込まれたからだ。これも不可抗力であり、石破首相が責められるようなものではない。



APEC 首脳会議でバイデン大統領と対談する石破首相

外交上のマナーというのなら、フジモリ元大統領の遺族で、ペルーの政治家である長女のケイコ氏、次男のケンジ氏が、石破首相の墓参りに姿を見せなかったことのほうが気になっている。後日、ケイコ氏はX(旧ツイッター)に石破首相の写真とともに感謝のメッセージを投稿しただけにとどまった。日本と縁が深い政治家の対応としては違和感が残る。ケイコ氏は26年のペルー大統領選へ立候補する意向だそうだが、日本との今後の関係に影響がないか、心配している。

おこうと思う。結論からいうと、石破首相は多国間会議でも米国のジョー・バイデン大統領、中国の習近平国家主席ら世界各国の首脳との会談でも積極的に発言し、見事に本格的な外交デビューを飾った。首相自身もG20終了後の記者会見で「かみあつた意見交換ができた」と語っている。

わが国での梅毒は、江戸時代に入ってもますます蔓延していききました。とりわけ首都であった江戸では、参勤交代の武士たちと田舎から出稼ぎにきた民衆とで、極端な男性過剰社会でしたから、彼らが一時の愉楽を求めた吉原などの遊郭(売春宿)が性病の巣窟となったのです。哀れを極めたのは、貧家に生まれて身売りをさせられた少女たちで、ほとんどが罹患して若死にし、無縁墓にまともて埋められるという悲惨な生涯でした。

創立者の「視点」



大学誌編集主任 特任教授 笠原浩

ちなみに、中国(唐王朝)から渡来した当初は「唐瘡」と呼ばれていた病気の名が「梅毒」、さらにその発疹が楊梅(ヤマモモ)に似ているとして「楊梅瘡」、その二つが合体した「梅毒」となったのは、この時代からです。

当時は、梅毒は罹患したら最後で確実な治療法は存在しませんでした。潰瘍形成をした場合に水銀軟膏の塗布(毒性はあるが、多少の殺菌効果はあった)や、草津温泉での湯治ぐらいが精一杯で、病勢の進行は避けられませんでした。

病原体が発見されたのが1905年。パウル・エーリヒと秦佐八郎がサルバルサンの開発に成功した1910年までは、梅毒に有効な薬剤は存在しなかったのです。

第98回松本歯科大学学会(例会)

日大松戸・金田隆教授が講演

「顎口腔のCT、MRI: 研究者および臨床医として何を知るべきか」



講演する金田教授

第98回松本歯科大学学会(例会)が11月28日(木)、本館1階学生ラウンジで、17時15分よりポスター発表形式で行われた。講座、病院より6演題の自由

討論が行われ、17時40分からは初めての試みとして会場を601教室に移し、特別講演会が開催された。

最優秀発表は「チタンと12%金銀パラジウム合金への血清アルブミンの吸着挙動について」を発表した。大学院生の黒岩寧々先生が受賞し、特別賞は「小児糖尿病患者に対する矯正歯科治療中のTBI-1歯科衛生士によるプラークコントロール」を発表した。歯科衛生士室の小原愛美衛生士が受賞した。



最優秀賞を受賞した黒岩先生

特別講演は日本大学松戸歯学部 金田隆教授に「顎口腔のCT、MRI」研究者および臨床医として何を知るべきか」と題して講演をしていただいた。



特別賞を受賞した小原衛生士

近年のコンピュータや医療機器の進歩に伴いエックス線CT(Computed tomography)やMRI(Magnetic resonance imaging=磁気共鳴画像検査法)検査が顎口腔領域にも普及し、臨床や研究に活用されている。この日は、多くの首脳が集まる会議では、相手が急いで立ち上がる間もないということがあるのだ。他の国際舞台、首脳でもよくあるのに、なぜか石破首相ばかりが批判されるのは本当に気の毒である。また、集合写真に間に合わなかったのも、今年9月に亡くなったアルベルト・フジモリ・ペルー元大統領の墓参りから会場に向かう途中に事故渋滞に巻き込まれたからだ。これも不可抗力であり、石破首相が責められるようなものではない。

同郷の先輩後輩が和気あいあいと情報交換

長野県出身在學生と懇親会

11月23日(土)勤労感謝の日、校友会長野県支部主催による「長野県出身在學生との交流会」が松本駅前養老乃瀧食文化会館にて開催された。

最近、長野県出身の新生は増加しているが、今年度の在籍学生は53名となった。今回は、8名の歯学部新入生

の参加を含め22名の在籍生と3名の臨床研修歯科医師および教員3名、長野県支部8名、合計36名の盛大な会となった。藤森恒美担当理事(10期生)の司会により、在学生から出身地域の紹介や近況が報告され、同郷の先輩後輩が和気あいあいと情報交換を行った。そして、



来年の再会を誓った交流会

全身疾患と口腔

その2 梅毒②

しかし、幕府の当局は、こうした病気の蔓延に対して全く積極的な対策を行ってはいません。「悪所通いで罹患するのは個人責任だ」というわけだったのでしよう。

1853年に日本の鎖国が解けた後、諸外国の圧力によって、長崎で娼婦の検診が1860年に実施されたのが、最初の

江戸での梅毒の蔓延ぶり、解体新書で有名な杉田玄白も「受診患者千人中の七七八百人が梅毒で治療に難渋した」と書き残しているほどです。江戸市中の人骨調査では、江戸期の下町(深川)の寺院で典型的骨梅毒が7%に認められたという報告もありますから、より軽度のもので含めれば、罹患率は数十%にも達していたに違いありません。

この病気がいかにポピュラーなものであったかを示す川柳をいくつか紹介しましょう。「安遊び父母はその病を憂う」安い娼婦を買って病気に感染しなければよいがと心配する親。「寝道具のないのを買うと横根なり」夜鷹(街娼)などはほとんどが病気持ち。横根とは生殖器周辺の硬性下疳。「鼻声の証拠は髪がまむほど」病状が進行するにつれて「梅毒声」になり、髪も抜ける。「今さら後悔鼻が落ち腰が抜ける」ゴム腫と呼ばれる肉芽腫の侵蝕で鼻が落ちて

ために「突撃一番」と名付けたゴムサックを配布したほどです。

元宝ジェンヌの朱紫令真さんが特別講義 伝わるコミュニケーション力を指導



表情や姿勢についての心構えを講義する朱紫さん

11月12日(火)、赤地憲一特任教授による歯学部1年生オーブンセミナーⅡ「歯科医師としてのコミュニケーション力」の授業が講義館105教室で行われた。今回特別講師として元・宝塚歌劇団星組男役の朱紫令真さんが登壇した。朱紫さんは2023年春に宝塚歌劇団を退団し、地元長野県に拠点を移して現在は地域の健康づくりに取り組み活動している。

朱紫さんは長野県篠ノ井出身で、屋代高校2年生時に宝塚音楽学校に挑戦し、23倍という高い競争率を突破して、1000期生として入学を果たした。2014年に宝塚歌劇団に入団後、約10年間にわたり男役として活躍された。2019年には奨励賞を受賞するなど、宝塚歌劇団の中で素晴らしいキャリアを築かれています。



笑顔の作り方を練習する学生たち

講義の冒頭で朱紫さんは、宝塚時代に学んだ「朗らかに、清く、正しく、美しく」というモットーを紹介し、この理念が自身のコミュニケーションスキルの上台につながっていると話された。そして、コミュニケーションにおける表情や姿勢の重要性について、具体的な技術と心構えを学生たちに伝授した。朱紫さんは「相手を思いやる心が自然な表情や姿勢に現れ、それがコミュニケーションの印象を大きく左右する」と述べ、「口角を軽く上げて相手の目を見る」「壁に背を当てるような正しい姿勢で立つ」といった実践的なアドバイスをあり、さっそく学生たちはペアを組み、朱紫さんの指導のもとで相手の目を見ながら話す練習に取り組んだ。最初は緊張した様子の学生たちも、練習を重ねるうちに自然な笑顔が見られるようになり、朱紫さんは「少しの心遣いで皆さんの表情が柔らかくなり、自然な笑顔が引き出されていますね」と評価し、学生たちも自らの変化に驚きつつ、積極的に学ぶ姿勢を見せていた。

さらに、朱紫さんはコミュニケーションスキルは、信頼関係を築くための重要な要素であると強調した。特に歯科医師として患者さんと向き合う際には、言葉だけでなく、表情や姿勢を通じて安心感を与えることが重要だと説明された。学生たちは朱紫さんの言葉に真剣に耳を傾け、自分たちが目指す医療人としての在り方を改めて考える機会となった。

講義終了後には、中庭で朱紫さんが宝塚時代の名曲「すみれの咲く頃」を披露。宝塚歌劇団の伝統を感じさせる力強い美しい歌声が響き渡り、学生たちを油で揚げ、デザートに使用するという独創的な発想が高く評価された。

冬夜に輝くヒマラヤ杉 子どもたちにブラッシング指導 イルミネーション点灯式

11月28日(木)、冷たい夜空の下、毎年恒例のイルミネーション点灯式が行われ、今年で32年目を迎えた。高さ17メートル、樹齢60年余を誇るヒマラヤ杉は、枝先まで18000球のハニートロ球のLED電球の光が施された。点灯の瞬間、木全体が温かな輝きに包まれ、辺り一面が優しい光で照らされると、訪れた人々から感嘆の声が上がり、道行く人々の心をそっと温めるように静かに輝き続けた。



優しい光を放つヒマラヤ杉

点灯式終了後には、病院北棟ラウンジにおいて、子どもたちを対象とした歯科衛生士によるブラッシング指導が行われた。真剣な表情で歯磨きのコツを学ぶ子どもたちに、ケーキとジュースがプレゼントされ、会場は笑顔と喜びで満たされた。プレゼントを手にした子どもたちは嬉しそうに頬を染め、家族や友人との温かな時間を楽しんでいった。

病院だより vol.62

健診センター 人間ドックがリニューアル

松本歯科大学病院健診センターでは、2023年度から当センターの特徴である3つの柱(臓腑検査・運動指導・歯科検診)を受診できる1泊ドックと、1日で臓腑検査・歯科検診を受診できる1日ドックを開始し、多くの方にご利用いただいております。

歯科検診はその重要性から義務化も検討されている中で、歯科大学病院併設の利点を生かすため、いち早く人間ドックのコーナーを2コース(プレミアム・ベーシック)、1日ドックを臓腑ドックとしてコースをリニューアル予定です。通常の半日ドック、脳ドックも加え、受診者ニーズに合わせてラインナップを取り揃えました。

松本歯科大学病院健診センター

臓腑ドック (A・Bコース) | 半日ドック | 脳ドック | 泊ドック (プレミアム) | 泊ドック (ベーシック)

県内唯一の歯科大学病院が提供する人間ドック

- 専門医による歯科検診
- 専門医による臓腑検査
- 胃カメラは高橋の少ない検査
- 最新のオプション検査
- 食べる食事(中華またはフランス)

リニューアル予定のコース一覧

ス内に組み込んでいます。臓腑検査は通常の人間ドックだけでは発見しづらいといわれている膵臓がんを発見するために検査(腫瘍マーカー)を追加し、膵臓がんの早期発見を目的としています。歯科検診も膵臓検査も一定の評価をいただいているので、今後も幅広くご利用いただきたいと考えています。

2025年度からは、1泊ドックを2コース(プレミアム・ベーシック)、1日ドックを臓腑ドックとしてコースをリニューアル予定です。通常の半日ドック、脳ドックも加え、受診者ニーズに合わせてラインナップを取り揃えました。

これからの、精度の高い検査と快適にご受診いただける雰囲気での健康維持のお手伝いができるようスタッフ一同がんばります。

松本歯科大学では、「よく噛んでおいしく健康に」をテーマに、「カムカム(噛む噛む)メニュー」の普及を進めており、今年で11年目を迎えた。この活動の一環として、一般から噛み応えのあるレシピを募集する「松本歯科大学カムカムメニュー写真コンテスト」が開催され、今年は県内外から73作品の応募があった。

コンテストでは、ホテルシェラリゾート白馬の総料理長・金澤光久シェフや、株式会社王滝の管理栄養士・木村雅子さんら十数名の審査員が厳正な審査を行い、最優秀賞には茨城県から応募された、潮田美紀さんの「カムカムチーズボール」が選ばれた。

最優秀賞の潮田さん(左)と増田特任教授

樹人君は、小学3年生の時から松本市の21か所の湧き水を調査し、最もおいしい味噌汁が作れる水を探したというエピソードを披露。長期にわたる探究心に会場から感嘆の声が上がった。(www.mhd.ac.jp/news/002223.html)

「カムカムメニュー」の普及を進めており、今年で11年目を迎えた。この活動の一環として、一般から噛み応えのあるレシピを募集する「松本歯科大学カムカムメニュー写真コンテスト」が開催され、今年は県内外から73作品の応募があった。



チェックガムを噛む参加者

咀嚼力を測定する体験を取り入れることで、講演内容がより実感を持って理解される工夫がされており、大盛況であった。カムカムメニューコンテストは今後も地域や年齢を超えて、さらなる発展が期待されている。

咀嚼力の測定後、本学総合歯科医学研究所の増田裕次特任教授による講演へと続き、「噛む力が衰えることで食べる楽しみが失われ、さらに健康状態が悪化する」という負のスパイラルについて解説された。

咀嚼力の測定後、本学総合歯科医学研究所の増田裕次特任教授による講演へと続き、「噛む力が衰えることで食べる楽しみが失われ、さらに健康状態が悪化する」という負のスパイラルについて解説された。

